

自然に恵まれた
まちだから



特

集

災害に強いまち にしよう！

写真：平成 18年 10月の低気圧による北上川の増水（中央二丁目）

突然の地震、台風や低気圧による大雨など、災害への準備は大丈夫ですか。昭和53年の宮城県沖地震を教訓に、6月12日を「県民防災の日」として、毎年県内各地で防災訓練が開催されています。また、河川の流域では、東北6県の持ち回りで大規模な水防演習が行われており、今年は石巻市で開催されます。高い確率で発生が予想される宮城県沖地震や大雨などによる河川の増水・はんらんなど、いざというときに備え、防災訓練や水防演習に進んで参加して防災意識を高めましょう。

「防災力」を高める

災害への備えは万全ですか。

もしものときに対応できる「防災力」を高めるために、いま自分ができること、私たちができることをもう一度考えてみるのが重要です。

災害には、地震や津波のように突然やってくるものと、台風や大雨などある程度予測することが可能なものがあります。ですが、どれも想像を超えた大きな力で災害を引き起こします。日ごろから「危機管理意識」を持って災害に備えましょう。また、各地区で開催される防災訓練や独自の自主防災組織での訓練などに参加して、避難行動などを実践してみることが大切です。

〔市で開催する防災訓練〕

●大規模津波総合防災訓練

とき 7月29日(日)

ところ 雲雀野公園

●総合防災訓練（河南・桃生地区）

※7ページに掲載しています。

「もしもの備え」

●身の安全確保はできていますか

建物の中では、ひとたび大地震の直撃を受けると、家具や器具類が「恐ろしい凶器」に変わり、私たちに襲いかかってきます。家具などの配置を工夫したり転倒防止策をとるなど、被害を最小限に抑える対策をとっておきましょう。また、避難場所や家族との緊急時の連絡のとり方など確認しておくことも大切です。

●非常食などを準備していますか

地震などで被害を受けた場合、救援物資が届くまで、自力で持ちこたえなければなりません。特に災害発生後1週間、交通網の断絶などで外からの助けを受けられない可能性があります。水、食糧、生活用品など、自分にあつた重さで準備しましょう。また、高齢者や子どもにも配慮したものを準備しましょう。

6月2日(土)開催の

水防演習に行ってみよう!

水害から地域を守るため日々訓練をしている県内の北上川下流・鳴瀬川流域14市町村の水防団が一同に集結し、日ごろの成果を発揮する「北上川下流水防演習」が成田地先北上川河川敷（河北総合センター付近）で行われます。

水防演習は、各地域において毎年のように豪雨や台風による洪水が発生していることから、国土交通省や県、市町村が主催となり東北6県、県内4水系（北上川、鳴瀬川、名取川、阿武隈川）の持ち回りで開催されています。

事前の備えと迅速な行動が重要です!

カスリン・アイオン台風が昭和22・23年と2年連続で北上川と鳴瀬川周辺を襲い、大洪水により大きな被害を受けました。また、平成14年7月の台風6号による旧北上川の浸水被害は記憶に新しいと思います。このように自然が豊かで住みよい街も、台風などによる大雨で突然の災害をもたらす河川の怖さを忘れないでください。

石巻地域で洪水時に危険であり、重要水防個所に指定しているのは、堤防の高さが低い住吉や門脇地区などの河口区域、堤防がやせて幅が小さい鹿又・大谷地・橋浦区域、堤防に水が浸透しやすく漏水が見られる高須賀・月浜・釜谷・柏崎区域があげられます。

これらの区域では、常時の巡視と水防団との連携により洪水時に備えています。また、北上川下流河川事務所では、市民の皆さんに雨量・水位などの河川情報を公表しています。

ハード面では、脇谷・鴛波の分流堰建設工事が平成19年度末完成予定ですが、まだ河川の整備水準は不十分であることから、水防団の技術力の強化をはじめとして、地域の皆さんが防災の意識を高めていただくことも重要と考えています。

すなわち、洪水に備えて各家庭での水や食糧の備蓄、災害弱者である高齢者などの支援、避難勧告・指示について、速やかな行動をとっていただくなど、事前の備えと迅速な行動をお願いします。



国土交通省 東北地方整備局
北上川下流河川事務所長
三石 真也さん



▲水防演習が行われる北上川河川敷（河北）

当日は、実際の洪水を想定した演習のほか、防災についての情報や知識を得られるコーナーなども併設されます。

水害も地震と同じく、私たちの大切な命や暮らしを奪ってしまう恐ろしいものです。普段から、もしもの備えを万全にしましょう。

問 北上川下流河川事務所
☎ 95-0194



▲昨年の水防演習（福島県）

新たな防災拠点が完成しました

石巻広域行政事務組合消防本部・石巻消防署の新庁舎が大橋一丁目に完成し、4月から運用を始めています。庁舎には最新鋭の高機能消防指令センターを導入し、新たな防災拠点として災害に強いまちづくりを目指しています。

■最新鋭の機能が詰まった新庁舎

新しい消防本部庁舎は、地震に強い免震構造で最新鋭のコンピュータと高度な通信技術を駆使した高機能消防指令センターを備えています。

■災害発生時の出動はこのように

- ① 緊急通報の受信
- ② 発信地表示システムによる災害発生地点をすばやく確定
- ③ 災害に最も適切な部隊を編成
- ④ 出動車両には、災害地点の情報を車両モニターへ送信
- ⑤ 現場活動の開始



▲最新鋭の高機能消防指令センター